

関係機関長 殿

沖縄県病害虫防除技術センター所長
(公 印 省 略)

病害虫発生予察技術情報について

令和 7 年度病害虫発生予察技術情報第 4 号を発表したので送付します。

令和 7 年度病害虫発生予察技術情報第 4 号

水稻（二期作）作付けにおけるスクミリンゴガイの防除対策について

令和 7 年の水稻一期作栽培において、西表島、石垣島の一部でスクミリンゴガイの多発生と水稻への被害が確認されました。本種は高温期に活動が活発になることから、2 期作でも被害が懸念されます。本種は無水の水田でも半年以上生存でき、湛水後に活動を再開して若苗を食害します。被害を防ぐためには、ほ場準備から移植 3 週間後までの防除対策が重要となりますので、以下の対策を徹底しましょう。

1 生態

- (1) 本種は南米原産のリンゴガイ科の大型淡水巻貝で、1980 年代に台湾などから食用（養殖用）として導入されたものが野生化した。九州・沖縄、四国、本州の太平洋側など、温暖な地域で多く発生し、現在も分布域の拡大が続いている。水稻では移植後 2～3 週間までの若苗を食害し、多発すると欠株や生育障害をもたらす（図 1、2）。
- (2) 成貝は最大で殻高約 8 cm、殻色は黄褐色～黒色、螺層は 5 層右巻きで、殻口は大きく角質の蓋を備える（図 3）。周年活動するが 3 月頃から摂食や交尾が活発になり、夏季に盛んに繁殖する。
- (3) 摂食活動は水中で行われ、深水田で被害が多い。落水後は土中に潜って活動を停止し、湛水すると活動を再開する。乾燥条件下では口蓋を閉じて代謝を下げ、無水でも半年以上生存できる。
- (4) 母貝は夜間、水辺の植物や用水路等のコンクリート壁面に登り、直径 2～4 mm の鮮紅色の卵を数十～数百個の卵塊で産卵し、1 頭あたりの年間総産卵数は 2,400～8,600 個に及ぶ（図 4、5）。産卵は 3～4 日間隔で行われ、好適な環境では約 10 日でふ化し、2 ヶ月程度で成熟する。

2 防除対策及び注意すべき事項

- (1) 水深が深い場所は集中的に食害されるため、傾斜や凹凸がないよう、均平に代かきを行う。
- (2) 畦畔及び用排水路周辺の雑草を除去し、産卵場所を作らない。
- (3) 取水口に侵入防止網等（目合 9 mm 程度）を設置し、用排水路からの侵入を防ぐ（図 6）。
- (4) 貝及び卵塊は見つけ次第除去する。人体に有害なセンチウが寄生している場合があるので、捕殺する際はゴム手袋やトング等を使用し、素手で触らない。
- (5) 本田での食害が集中する移植後 2～3 週間は 1 cm 以下の浅水管理に努め、本種の活動を抑えるとともに、メタアルデヒド粒剤などの薬剤を施用する。
- (6) 収穫後はトラクターの速度を遅く、PTO 回転を速くして土壌を細かく砕くよう丁寧に耕耘し、成貝を破砕する。使用後の機械はよく洗浄して泥を落とし、他ほ場への貝の持ち込みを防ぐ。
- (7) 多発圃場では、収穫後に 1～4 日間湛水し、石灰窒素を全面散布した後、更に 3～4 日間湛水を保ち、貝を致死させる。荒起こし後に石灰窒素を全面散布し、同様に湛水してもよい。魚毒性が高いため、処理後の田面水は水路に流さず自然落水する。また窒素成分を含むため、次作の施肥量を調整する。



図1 食害による水田の欠株



図2 イネ株元に寄生する稚貝



図3 成貝



図4 卵塊



図5 畦畔雑草上の卵塊



図6 取水口の侵入防止網

★詳しくは沖縄県病害虫防除技術センターにお問い合わせ下さい★

TEL : (本所) 098-886-3880、(宮古駐在) 0980-73-2634、(八重山駐在) 0980-82-4933

ホームページアドレス : <https://www.pref.okinawa.jp/shigoto/nogyo/1010700/index.html>

